

教界ニュース

伝道会議7年ごと開催に

継続性を重視、常設準備室を設置

日本福音同盟(JEA) 9日に開港の舞台・横浜で開かれる「日本プロテスタント宣教150年記念大会」に担当理事を立てて協力しているが、今総会道会議(JCE)の継続性を明確化することなどを盛り込んだ09年度事業計画案を承認した。

また、日本プロテスタント宣教150周年記念として、今総会では1日目を公開講演会に、2日目をプロテスタント宣教150年「これからの日本の伝道」をテーマに、JEA外からの講師を迎え、講演とパネルディスカッションを開催した。

JEAは、7月8日、9日に開港の舞台・横浜で開かれる「日本プロテスタント宣教150年記念大会」に担当理事を立てて協力しているが、今総会道会議(JCE)の継続性を明確化することなどを盛り込んだ09年度事業計画案を承認した。

また、日本プロテスタント宣教150周年記念として、今総会では1日目を公開講演会に、2日目をプロテスタント宣教150年「これからの日本の伝道」をテーマに、JEA外からの講師を迎え、講演とパネルディスカッションを開催した。

第24回 JEA総会

「伝道する教会」が「世界政策」を

東神大学長 近藤氏講演 現代の社会倫理にも福音が中心



講演者、左から東京神学大学の近藤勝彦学長、改革派の小野静雄氏、東京基督神学校の山口陽一校長

6月1日、JEA総会公開講演会では、「伝道の神学」などの著書がある近藤勝彦氏(東京神学大学学長、日本基督教団鳥居坂教会協力牧師)、『日本プロテスタント教会史』などの著書がある小野静雄氏(日本キリスト改革派多治見教会牧師、神戸改革派神学校理事)が講演、『日本キリスト教史』などの著書がある山口陽一氏(東京基督教団市川福音キリスト教会協力牧師)が応答講演をした。

近藤氏は「日本伝道の救済の希望を支える真

150年の回顧と展望」を語り、日本のプロテスタント伝道が「世界伝道の世紀」といわれた19世紀の信仰復興運動に支えられた「福音主義自由教会」と各派の伝道団体に派遣された宣教師たちからもたらされたことを指摘。これを「ローマカトリックも宗教改革とも異なる西方教会の『第三形態』と位置づけた。

その後の伝道の進展について、進取の気性に満ちた明治10年代、戦後しばらくの時期を除いて、「人生の深い意味や世界の救済の希望を支える真実の宗教に向かう求道心は希薄」なまま今日に至っているとの分析。今、世の中は古い地域共同体が崩壊し、家族の紐帯も希薄化し、魂は分断され、孤立化を強め、多くの人が魂の平安と真実の共同体を求めている。現代の社会倫理にも決して十分ならなかったことを反省し、イエス・キリストにおける神の救いの出来事を深く掘り下げ、洗礼と聖餐の理解を深めた福音主義を展開する。それが私たちの課題と結論づけた。

また宣教10年に神学者

渡辺善太が語った講演を援用し、「福音主義と教会形成、この2つに日本プロテスタント伝道150年の良質な流れはある」と評す。最近50年に、社会のナシヨナリズム回帰と新左翼の感情的な急進主義に教会が翻弄され、福音主義の基本的信仰内容が否定されてきた動きを批判し、「日本の福音主義が傾向として聖礼典の理解に浅く、『信仰と職制』に対する理解も不十分で、社会倫理にも決して十分ならなかったことを反省し、イエス・キリストにおける神の救いの出来事を深く掘り下げ、洗礼と聖餐の理解を深めた福音主義を展開する。それが私たちの課題と結論づけた。

また宣教10年に神学者

承し、これに参画する、③第6回以降の会議開催については原則として7年間隔で行う、の3点の内容を提案、可決された。日本伝道会議はこれまで

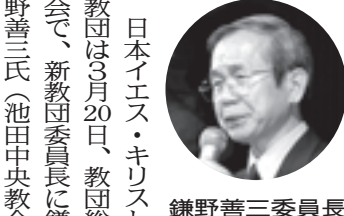
日本イエス・キリスト教団 新委員長に鎌野氏

鎌野善三委員長

牧師)を選出した。副委員長は小菅剛、書記は野瀬一之、委員には船田一、水野晶子、鍋島猛、福本行宏、西原孝至(教団事務所主事)、大塚篤、大瀧一郎の各氏、信徒委員に宇井英之、正野隆士、松本紀男、倉地

くましい福音主義的神学をもって教会形成に励むため、「伝道する教会」の形成を必須な中心的課題として、現代世界における「教会の世界政策」を打ち出すべきだと強調。生命倫理、環境危機など現代の問題も、「福音的であり、賞、性差別と闘う女性らも」

NPO法人「女たちの権利奨励賞」(やより賞)の公募を開始した。やより賞は、「社会的弱者」の側に立ち国際的ジャーナリストとして活躍し続けた故・松井やよりの遺志により創設され、「やより賞」と「や



鎌野善三委員長

で8、9年ごと開かれ、JEAの事業の主要な柱であることが確認されているが、今後さらに、1回ごとの伝道会議で出された提言や話し合われた

日本福音教会連合 新理事長倉賀野氏

日本福音教会連合は3月2、3日、第39回総会で役員選挙により、倉賀野政氏(岡山中央キリスト教会牧師)を理事長に選任した。副理事長・戸叶誠、総務理事・太田正信、伝道理事・阿部俊昭の各氏。そのほか理事に三浦正子、大川百合子、平井猛、監事に稲田敏朗、森下清子の各氏を選出した。

また、日本弟子たちの教会(朴永信牧師)が教団に加盟。岡山中央キリスト教会野田伝道所が同

日本ナザレン教団 牧師謝儀水準を引き上げ 委員会予算は10%削減

日本ナザレン教団(松田基子理事長)は3月6日、第62回年會で、全教職が生活の心配なしに伝道牧会に従事することを目指す「教会援助規程」を可決し、教団として牧師謝儀保障水準を引き上げた。この規程は2010年度から運用される。今年度予算に関して、教団の収入減少を受け、

「やより賞、性差別と闘う女性らも」

よりジャーナリスト賞」がある。やより賞の対象は「21世紀を戦争と性差別のない世紀にするために、社会的弱者とされて、いる人たちとともに、広くアジア地域を中心に草の根で活動し続ける、勇気と責任感のある女性ジャーナリスト、アーティスト、映像、著作、印刷物などジャンルは問わないが、作品提出が必要。各受賞者には、奨励賞と奨励金50万円が贈られ

世界の飢えた人々に 食糧と愛を

日本国際救済対策機構

http://www.jifh.org/

献金の振込は、郵便振替 00170-9-68590

〒561-0032 大阪府河内郡守口市3-74-1 ☎072-820-2225

教会から独立、佐々木寛治牧師が赴任した。

け、委員会予算を一律10%削減した。また、教職員数などが減少しつつある現状をふまえ、教団として心を合わせた宣教計画が必要」などとして、中長期宣教計画(ルネサンス・プロジェクト)の基本方針を承認した。

役員選挙では、理事長、書記理事、教職理事、信徒理事を信任。任期満了に伴い、会計理事に松川卓氏を選任した。委員長選挙では、伝道、教育、厚生、社会、幼保の各委員長を再任。出版委員長に坂本誠氏、教会教育委員長に中出牧夫氏を選任した。神学校理事には松本真平氏、生駒勇次氏を選任した。

【訂正】6月7日号の通巻番号が間違っていました。正しくは第2022号でした。▽1面「カルヴァン生誕500年記念集会」の申し込みファックス番号を047・342・5034に訂正します。

物静かな宣教師者ラルフ・ウィンター博士の一言が思い出される。今から30年近く前、場所はカリフォルニア州パサデナ。記者が訪れた世界宣教米国センターには共産圏、イスラム圏といった文化圏に分かれて研究が備えられていた。ウィンター博士は、「アンリイ・チト・ビープル・グループ(未伝の人々のグループ)」という概念を提唱していた。宣教センターでうかがった宣教論も、この概念をいかに日本に適用するかという点にあった。たとえ当時、日本では新宗教の台頭が話題になっていた。博士はそれぞれの新宗教をそれぞれ別の文化圏と捉え、それに見合ったアプローチを提案した。これは目からうろこだった。従来の宣教論は年齢別や性別によってアプローチを考え



落ち穂